



ミサイルが飛んでくるときには
「Jアラート」が知らせてくれるよ!

- 外にあるスピーカーなどから、サイレンの音やメッセージが流れる
- 携帯電話やスマートフォンにメールが届く

もしもJアラートが流れたら...



外にいるときには
(学校に行く途中や公園で遊んでいるときなど)

強い風やかけらを避けるために建物の中に入ろう

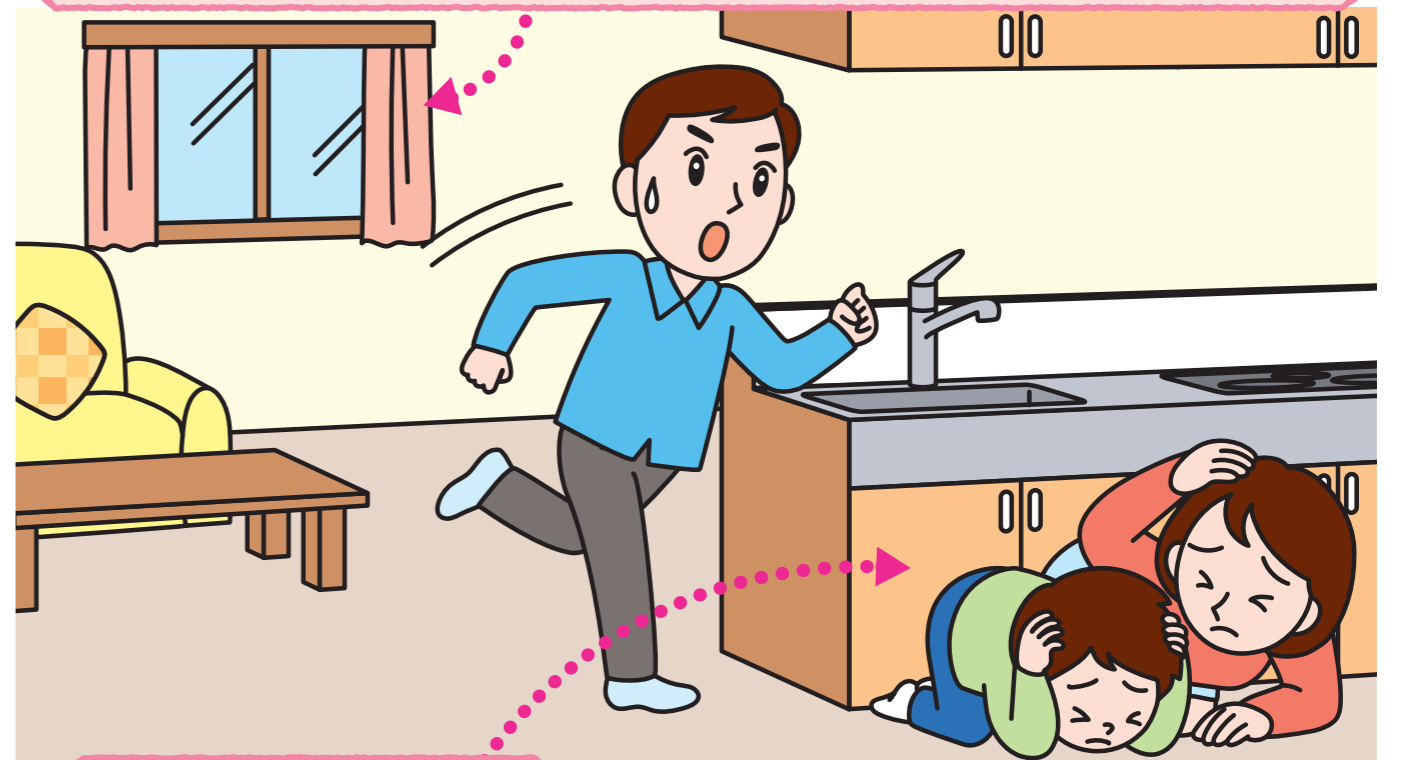


すぐに建物の中や地下へ避難できないときには、
物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭を守ろう



建物の中にいるときには
(おうちの中や教室など)

窓ガラスが割れて、けがをするかもしれないから窓から離れよう



身を守る姿勢をとろう

学校にいるときには、先生のいう
ことをよく聞いて身を守ろう





弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動

②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。



国民保護ポータルサイト
武力攻撃やテロなどから身を守るために



事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/gaiyou/shiryu/hogo_manual.html

ミサイル落下時には、こちらから政府の対応状況をご覧になれます



首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/



Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai



Jアラート (例) 直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが、●時●分頃、●●県周辺に落下するものとみられます。直ちに避難してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

近くの建物の中か
地下に避難。

(注) できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになれば、それ以外の建物でも構いません。

建物が
ない場合

物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。

屋内に
いる場合

窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。

近くに
ミサイル
落下!

●屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。

●屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

弾道ミサイル攻撃を受けたとき 明暗を分けるのは避難行動

弾道ミサイルが着弾した場合、激しい爆風や破片などにより、身体へ大きな被害を受ける可能性があります。爆風や破片などから身を守るため、状況に応じた避難行動をとることが大切です！



※イメージ

屋外にいる場合
爆風や破片などを避ける

 **近くの建物の中**
(できれば頑丈な建物)
または **地下へ**

もしも、近くに建物がない場合は

 **物陰に身を隠す**
または
地面に伏せ頭部を守る

屋内にいる場合
爆風で割れた窓ガラスなどを避ける

 **窓から離れる**
または
窓がない部屋へ

よくあるご意見と回答

Q1

Jアラートが流れた後に避難を始めても手遅れでしょうか？

A. 避難行動にかけられる時間は限られたものですが、それでも、近くの建物の中や地下へ避難する、物陰に身を隠すなど、わずかな時間でもできることはあります。

Q3

地面に伏せる、頭部を守る……。それで、ミサイル攻撃から身を守れるとは思えません

A. 横(水平)方向に広がる爆風や飛散する破片等に対して身体の衝突面を極力減らすことが重要なので、避難行動をとらない場合と比べれば被害を軽減できる可能性を高めることができます。

Q2

近所には、丈夫な建物も地下もなく、避難できるところがありません

A. 横(水平)方向に広がる爆風や飛散する破片等に対して身体の衝突面を極力減らすことが重要なので、木造住宅へ避難するだけでも、避難行動をとらない場合と比べて被害を軽減できる可能性が高まります。

Q4

避難したところで、弾道ミサイルが直撃したら何をやっても無意味では？

A. 弾道ミサイルによる被害の程度は、その威力などによりさまざまであり一概には言えませんが、地下への避難などの適切な避難行動をとることで、避難行動をとらない場合と比べて被害を軽減できる可能性を高めることができます。

弾道ミサイル発射等への学校の対応について

令和5年6月12日

豊見城市教育委員会

- 危機事象に備え、児童生徒への周知方法、職員役割分担、保護者への連絡体制を確認しておく。
- 有事の際、状況に応じた適切な行動がとれるよう、事前に指導・訓練を実施する。
- 本事象に係る児童生徒の出席等については生徒の不利益にならないよう柔軟に対応すること。

事前の対応	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難訓練の実施 「学校の危機管理マニュアル作成の手引き(文科省)」参照 □ 状況に応じた避難方法、避難場所等の確認(事前指導) □ 児童生徒の安否確認方法や保護者引き渡しの方法についての確認 □ 教職員の役割分担の明確化 □ 学校内での伝達方法の確認(校内放送等) □ 児童生徒、保護者等への連絡体制の確立(HP、学校一斉メール、LINE等) 			
発生時の対応	① ミサイル発射情報・避難呼びかけ	◆ 学校にいる場合	◆ 登下校中の場合	◆ 校外活動中の場合
		【避難行動指示】 ○全校児童生徒への周知 避難行動指示(屋内、屋外) ・姿勢を低くし頭部を守る ・屋外の児童生徒は建物や地下へ避難する。 ・屋内の児童生徒はできるだけ窓から離れる。机の下に入り頭部を守る。	【避難行動】 ○登下校の際は、近くの建物もしくは学校へ避難 ・姿勢を低くし頭部を守る ○近くの大人へ助けを求め ず。 ※登校前は、避難が解除になるまで自宅待機。	【避難行動指示】 ○場所に応じた的確な避難行動指示 ・姿勢を低くし頭部を守る。 ※計画の段階で危機事象を想定した対応(避難場所、情報伝達方法等)を決めておく。引率者は、携帯電話等の情報が得られるツールを常に携帯しておく。
	② 上空通過・領土領海外へ落下	【避難行動解除】 ○安全を確認し、授業再開 ※児童生徒の状況確認、気持ちを落ち着かせる。	【避難行動解除】 ○安全を確認し、登校開始、もしくは、そのまま下校	【避難行動解除】 ○安全を確認し、活動再開 ※児童生徒の状況確認、気持ちを落ち着かせる。
	③ 領土領海に落下(可能性を含む)	【避難行動の継続】 ○状況に応じ、途中下校もしくは、学校待機を判断、指示する(保護者引き渡し等) ※臨時休業や始業終業時刻の判断については、教育委員会と協議の上決定する。	【避難行動の継続】 ○職員は、安全を確認し通学路の巡視、児童生徒の安否確認を行う。 ※臨時休業や始業終業時刻の判断については、教育委員会と協議の上決定する。	【避難行動の継続】 ○活動を中止し、校長(教育委員会)へ状況説明、以後の対応を確認し指示。 ※臨時休業や始業終業時刻の判断については、教育委員会と協議の上決定する。
	※ 上記対応は、Jアラートによる発信がなされた地域が対象となる。			
事後の対応	<ul style="list-style-type: none"> □ 行った対応の検証 □ 教職員間での情報共有 □ 学校危機管理マニュアルへの反映(見直し、追記等) □ 継続的な児童生徒の心のケア 			